小教区評議会役員交流会報告

■テ ー マ：サイクルテーマ③「社会への福音宣教」～教会の中にある社会の現実に気づく～
■対　　象：ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者、小教区役員(各小教区 2 名まで)
■日　　時：2026 年 9 月 26 日（土）　13：00～16：00
■場　　所：河原町カトリック会館大ホール　他
■参加人数：44 名（信徒 39 名、司祭 5 名）
■内　　容：趣旨説明・導入、分かち合い（霊における会話）、全体会

この交流会は、小教区評議会の役員が互いに交流を深め、役員の役割や使命について考える機会となるよう実施している。今回は、春の研修会で提示された二つの問い「私たちの小教区で見えにくくなっている人は誰でしょうか。」「その人が安心して集えるために、役員として何から始められるでしょうか。」をテーマに霊における会話の方法で分かち合いを行った。ファシリテーターにはヌヴェール愛徳修道会シスター、信徒カテキスタ、求道者に同伴する信徒他の方々にご協力いただいた。

- **大塚司教　講話 要旨**

5 月の研修会で「見えにくくなった人、見ていない人」という視点を、改めて意識するよう役員に呼びかけた。役員は教会全体をこのような視点へ導く役割を担っている。教会では「皆さんのために」と考えながらも、実際には、現在教会に来ている人や協力してくれそうな人を中心に、活動や行事を計画しがちである。しかし、身体の不自由な人、高齢者施設で暮らす人、家庭の事情を抱える人、外国籍の人など、さまざまな理由で教会の活動に参加できない人々の存在を忘れてはならない。その際に重要となるのが、「Option for the poor」、すなわち「貧しい人々のための優先的選択」という考え方である。これは、貧しい人々を後から活動に加えるという意味ではなく、教会の計画や判断を、最初から最も弱い立場にある人、声を上げにくい人、見えにくくなっている人の側に立って考えることである。活動が誰にとって参加しやすく、誰にとって参加しにくいものとなっているのかを、改めて問い直す必要がある。

また、「なぜ来ないのか」を教会側で勝手に決めつけないことも重要である。何か理由があるのではないかと想像し、可能であれば本人の声を聴くことが求められる。そうすることで、これまで気づかなかった課題が明らかになる可能性がある。

「見えにくい人」に目を向ける姿勢は、教会内だけの問題ではない。それは、地域社会へ福音を届けるための出発点でもある。貧しい人々や弱い立場にある人々を優先して考えることは、教会が社会の現実に向き合い、福音を具体的に生きることにつながる。

- **全体会 分かち合いグループ発表**

分かち合いで話し合われた「大切な気づき」と「これならば実践できること」を発表した。

第 1 グループ

若い世代が少なく、教会からの情報発信も十分ではない現状を踏まえ、特に若い人たちの声を聞き、積極的に情報を収集する必要があるとの意見が出た。また、神から与えられている恵みや状況は一人ひとり異なるため、画一的な対応ではなく、それぞれに応じた関わりが大切である。神の時と恵みを信頼し、何よりも祈ることを大切にしたい。

第 2 グループ
互いに関心を持って交わることが大切。そのために、人と人が交われる場をつくり、ともに生きる関係を育てることが必要である。コミュニケーションでは「話す」だけでなく「よく聞く」ことを大切にし、教会に来られない人のためにも祈り、まず自分たちから声を掛け合っていきたい。

第 3 グループ
「私たちは本当に見ようとしているのか」「見えにくくなっていることを仕方がないと済ませていないか」と問い直した。役員の多忙さや行事の達成を重視する傾向の中で、「共に歩む」ことの意味を見失っていないかとの反省もあった。自分たちが初めて教会を訪れた時の期待や緊張、御言葉を信じて門をたたいた思いを振り返り、教会を祈りの場として大切にしながら、人に頼り、皆の目で現実を見て、ともに歩んでいきたいとの意見が出た。

第 4 グループ
教会の高齢化そのものよりも、30～50 代を含めた「若い世代」が少なくなっていることが大きな課題であるとの指摘があった。高齢者には送迎や電話など、できる支援を行う一方、若い世代がなぜ教会に来ないのかを考える必要がある。忙しいからこそ癒しや安心を求めるはずであり、それでも来ないのは教会の魅力が伝わっていないからではないか。まず自分たちがイエスから与えられた幸せを生き、その喜びを伝えることができれば自然と人は集まる。ヨーロッパやアメリカの教会で新しい人が入ってきていることに何かヒントはないか。一つの教会だけでなく教区全体で考えていく必要がある。

第 5 グループ
「見えにくくなっている人」に目を向け、その思いや状況をまず受け止めることが大切との意見が出た。高齢者、若者、教会から離れている人など、年代や状況に応じたコミュニケーションも必要である。誰もが「また来たい」「来てよかった」と思える魅力的で楽しい教会を目指したい。そのためには役員だけで抱え込まず、周囲の協力を得るとともに、教会の仕事を減らし、神父や役員への負担を軽減することも重要である。また、司祭が多忙で信徒との交流が難しく、「神父が見えにくくなっている」との声もあった。建物のバリアフリー化も必要。

第 6 グループ
外国人信徒、高齢化する日本人信徒、さまざまな理由で教会に来られなくなった人などが「見えにくくなっている人」ではないかと考えた。教会は建物ではなく、信仰を同じくする人々の共同体であり、役員には人と人をつなぐ役割がある。ミサでの奉仕などを通して外国人や高齢者との交わりを深め、困り事を抱える人には対話を通して寄り添い、必要な支援につなげていくことが大切である。教会を心安らぐ、居心地のよい場として整えていきたい。

第 7 グループ
免許返納後、公共交通機関を乗り継いで長時間かけて教会に通う人や、地域からタクシー会社がなくなり、日曜日の移動も困難になっている人がいる。役員として、教会を楽しく過ごせる場、交流やコミュニケーションが生まれる場にしていくことが必要。また、役員だからと一人で抱え込むのではなく、互いに支え合いながら役割を担うことも大切との意見が出た。

- 企画室ふりかえり

当日はあいにくの雨模様の中、近隣の教会から遠方の教会まで各地区ブロックの役員の方々がお集まりくださいました。短時間の開催でしたが、霊における会話で共に祈り、分かち合う中でいろいろな気づきがあったことが全体会で発表されました。一人ひとりの心に響いた言葉や思いが小教区の福音宣教の力となることを願います。

（了）